

《わがまちのお宝 東彼杵町》

そのぎ茶 と 町の歴史

東彼杵町 総務課

はじめに

東彼杵町は、お茶とみかんとクジラの町として、また、人と産物と情報が集まる長崎県の玄関口として知られていますが、かつては、長崎街道の宿場町として、また平戸街道の起点として、たくさんの商人や武士、ときには外国からの来訪者たちで賑わっていた町でもあります。

江戸時代初めから明治にかけての数百年間は、捕鯨とクジラ肉の取り引きの中心地として栄え、ここに陸揚げされたクジラが九州各地へと送られていました。

町内には、こうした街道やクジラにまつわる歴史の面影が各所に残されているほか、さらには昔の古墳や遺跡なども数多く見ることができます。

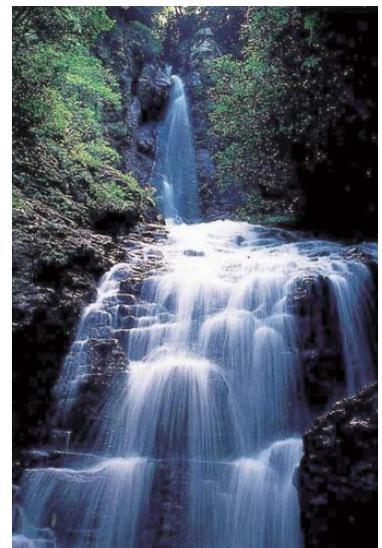
大村湾を臨む温暖な気候と、^{こくうざうだけ}虚空蔵岳から多良山系の山々は、美しい自然の景観と豊かな緑を育み、中でも千綿川上流の清流に沿って四十八の淵が連なる「龍頭泉」は、^{ひろせたんそう}儒学者の広瀬淡窓が名づけた景勝地として、長崎県を代表する観光地のひとつに数えられています。



クジラ肉の出荷



虚空蔵岳を望む茶園風景



龍頭泉の滝

そのぎ茶について

眼下に大村湾が広がる標高150~350メートルの高台に、広大なそのぎ茶の茶園があります。総面積約400ヘクタール。茶生産農家約400戸。年間約700トン近い緑茶の生産量は長崎県内の約65%を占めています。

生産された緑茶は、「そのぎ茶」として、伝統ある「手炒り釜炒り茶」の流れをくみ、勾玉のような丸っこい独特の形からは、深みのある「ふくよかな味と香り」がかもしだされ、銘茶として多くの人々から高い評価を受けています。

茶園は、昭和40年代にその面積を急速に拡大し、さらに1978年（昭和53年）、県営農用地開発事業などによって茶園の新植や改植も進み、その後、良質茶生産のための土づくりを目的とした堆肥舎の建設、茶の安定生産のための防霜施設整備、担い手の規模拡大を目的とした省力化防除施設や乗用摘採機導入などのハード面の整備や、環境保全型農業をめざす茶園の推進など、良質茶生産の産地としての基盤づくりに努めています。

1992年（平成4年）、そのぎ茶は九州茶業品評会において農林水産大臣賞をはじめ上位を独占し、それ以降も、優良茶産地として数々の産地賞を受賞しています。

また、健康飲料としても注目され、お茶産地としての地位を確固たるものとしています。400戸の生産者の皆さんは、さらなる品質向上を目指し日々努力し続けています。



集団茶園の風景

天皇杯受賞のそのぎ茶

町内でそのぎ茶を生産する松尾政敏さんが、平成22年度の第49回農林水産祭の蚕糸・地域特産部門で、みごと「天皇杯」を受賞されました。この天皇杯は、農林水産関係の表彰制度の最高位に位置づけられており、3個人、4団体に贈られたものです。

農林水産省による受賞理由として、省力化施設や機械の導入による経営規模の拡大に取り組み、茶園面積は県平均の約3倍にあたる450アールまで拡大。適切な品種構成と徹底した「土・茶樹づくり」により、高品質で収益性の高い茶業経営の展開や、他の生産者と共に「長崎玉緑茶」の商品化や新商品開発を推進されており、国内外での販路拡大にも積極的に出向き、長崎県産茶の普及拡大を図っている点などが大きく評価されました。

卓越した生産・製茶技術で、お茶づくりに情熱的に取り組まれ、常に本町及び県内の茶業の模

範となる茶業経営を行われ、「そのぎ茶」の銘柄確立に貢献されたものです。

松尾さんの取組みは、近年、茶価低迷などにより茶業経営環境が厳しくなるなかで、優良な茶業経営モデルとして、その波及効果は極めて大きいものがあります。消費者を第一に考え、ニーズに対応した、美味しく安心して飲んでもらえるお茶づくりに、光を当てた功績ともなりました。



天皇杯受賞の松尾さん（右から2人目）

大浦お慶とそのぎ茶

お茶の歴史をひもといてみたとき、日本茶の輸出貿易の世界でおもしろい史実があります。

この「そのぎ茶」をはじめとする九州一円の「緑茶」を集め、江戸時代末期に海外へ輸出した人物が、ここ長崎にいました。

その人物は、「お慶さん」として親しまれ、今もなおその功績が語り継がれる長崎市油屋町の女性豪商「大浦慶」です。

昨年、長崎はNHK大河ドラマ「龍馬伝」で賑わいましたが、ドラマのなかでミステリアスな女商人として登場したのが、女優余貴美子さん扮する大浦慶でした。テレビで放映されたシーンで、お慶はカステラの製造資金として、五両のお金を借用書もなしに龍馬に差し出しましたが、夢と男気ある龍馬たちをかげから物心両面で支え、見守った、型破りな行動に感動させられたものです。

大浦慶は、日本人で初めて日本茶の貿易を行い、「そのぎ茶」など長崎県内のお茶を始め、佐賀、熊本、宮崎など九州一円からお茶を大量に買い付けて、アメリカ・ヨーロッパに輸出した史実があり、これが日本茶輸出貿易の先駆けとなりました。江戸時代誰も考えつかなかった日本茶の輸出を成功させた長崎の女傑とも伝えられています。

その後、九州各地の釜炒り製玉緑茶が集められ、長崎から盛んに輸出されました。長崎におけるお茶の歴史は古く、平安時代末期の頃、禅僧・栄西が大陸から平戸の地に禅とお茶を持ち帰ったのがはじまりで、そののちに本格的なお茶の栽培として、全国各地に広まったと言われています。

特に15世紀に釜炒りによる製茶法が西九州に伝えられると、わが町で盛んに栽培されるようになり、今日の特産品となりました。

新しい時代へと駆け上っていった志士たちに夢を託したお慶という女性は、お茶の輸出で巨万

の富を得て、幕末の動乱期に活躍した坂本龍馬をはじめ、陸奥宗光、大隈重信、松方正義らの維新の志士らへ惜しみなく金銭的援助をしたことでも有名で、明治維新のかげの立役者のひとりであったと言えるでしょう。

お慶さんまつり

NHK大河ドラマ「龍馬伝」がテレビで放映され、わずか33年の生涯で近代日本の幕開けに大きな功績を残し、いまなお人の心を惹きつけてやまない英雄「坂本龍馬」ブームが、今再び日本中で巻き起こりました。

長崎出身の俳優福山雅治さん扮するこの坂本龍馬が話題となったなか、これら幕末の維新の志士らを支えた大浦慶の功績をたたえ、「大浦慶と東彼杵町」、そして「そのぎ茶」との歴史的な関わりを町内外に広く紹介し、町のPRと地域の活性化を目的にした「そのぎ茶とお慶さんまつり」を開催しました。

町の恒例行事として2010年（平成22年）11月27日・28日に、町特産品等の展示即売や多彩なイベント、アトラクションなどで賑わう「東彼杵町ふるさとふれあいまつり」を開催し、町内外からの多数の観客が見守るなか、その記念行事を行いました。

お慶さんの功績を町としてたたえ、「お慶茶」として、そのぎ茶の苗木の記念植樹を行い、また、この記念植樹にあたり、「彼杵」の地名由来とされる「その杵」にちなみ、「杵つき餅つき」でお祝いしました。



「お慶茶」の記念植樹

また、同11月22日～28日の7日間にわたり、「大浦慶とそのぎ茶の歴史」資料展を開催しました。坂本龍馬をはじめ、幕末の維新の志士達を支えた長崎の豪商、大浦慶にまつわるそのぎ茶の歴史や史跡などを写真パネルで紹介し、あわせてNHK大河ドラマ「龍馬伝」での宣伝資料展示や、

大浦慶を演じた女優余貴美子さんの紹介写真展示などの企画資料展を開催しました。

会場となった町歴史民俗資料館には、大勢の来館者で賑わいをみせたところです。

さらには、昔ながらの伝統的な製茶法のひとつ、手炒り釜によるそのぎ茶の手炒り釜炒りの実演体験や、自分流の淹れ方でお茶を楽しむそのぎ茶野点コーナーを設けました。

会場につめかけた、たくさんのお年寄りや子どもたち、また、たくさんの家族づれや友達で、お慶さんまつりが盛り上がりました。

道の駅「彼杵の荘」と特産品

町内の特産品のことについて話を加えると、そのぎ茶に加え、イチゴ、みかん、ハウスびわ、アスパラガス、肉用牛、なまこ・・・と、当町の農水産物は高い品質と自然なおいしさで、町内外の皆さんに愛されています。こうした町内特産品の流通、地域の活性化を目的とした交流施設として、道の駅「そのぎ しょう彼杵の荘」があります。

主要国道の交差点がある東彼杵町は、現在も交通の要衝です。たとえせわしい時代だとしても、人が集う場所では時間がゆっくりと流れ、交流の場が生まれます。遠い昔から現代、その時代ごとに「安らぎ」・「憩い」・「交流」があった東彼杵町。この、道の駅彼杵の荘には、見て・触れて・休んで・楽しむ、くつろぎの空間があります。



彼杵の荘



「彼杵の荘」特産品販売所

国道205号線沿いにある道の駅は、駐車場、休憩施設、トイレ、情報施設、売店等を備え、その中に町内産品を販売する物産館があります。店内でのショッピングは見るだけでも楽しい、様々なお土産産品が勢揃いしています。

交通車両や人が通過するだけの街にならないためにも、現在の道の駅は、町の情報発信拠点としての役割を担い、その

ぎ茶をはじめとする地域物産、特産品販売による物・人の交流により、町外、県外への町のPR活動や地域産物の消費拡大に向けた活性化を図っています。

むすびに

これまで、お茶等の産業を中心とした町の紹介をしましたが、伝承350年を誇る長崎県指定無形民俗文化財の坂本浮立^{さかもとふりゅう}や、千綿人形浄瑠璃^{ちわた}の伝統文化など、まだまだ伝えきれないものがたくさんあります。



坂本浮立



千綿人形浄瑠璃

これを読んでいただいた皆さまも、この機会にぜひ東彼杵町に興味を持っていただければ幸いです。我が町は人口9千人の小規模な町ですが、長崎県の真ん中に位置する町として、自分たちの住む町の魅力を再認識し、歴史や文化を大切に誇りに思いながら、町民との協働のまちづくりに全力で取り組んでいるところです。